

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第一小学校

## 1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

### 【国語】

- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめて書く力に課題がありました。このため、児童が自ら考え、意見交換を行いながら考えを深めていく取組みを進めてきました。また、自分の考えを相手に伝わりやすく文章で表す力の育成にも取り組んできました。
- 文の中で漢字を正しく使うことに課題がみられたため、漢字を正しく使う力の向上に向けて、校内研修で新出漢字の学習の進め方の交流を行いました。また、国語の授業だけにとどまらず、様々な学習の場で意識的に漢字を使ったり、意味を問いかけたりする活動を大切にしてきました。

### 【算数】

- 表などから条件に合う数を読み取る力に課題があり、問題文の読解を大切にし、自分が考えたことを数値や学習した言葉を用いて記述していく機会を増やしていきました。
- 自分の考えや理由を言葉や数を用いて記述する力に課題がみられたので、算数だけにとどまらず児童の主体的な活動を日々の授業を始めとして様々な教育活動に取り入れました。

## 2. 教科における成果と課題について

### 【成果】

#### 【国語】

- 「読むこと」の目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる設問では、全国平均を上回る正答率でした。
- 記述式の設問はいずれも正答率が全国平均を超え、無解答率では全国平均よりも大きく低い結果でした。
- 質問紙調査の「国語の授業内容はよくわかりますか」について肯定的な回答が全国平均を大きく上回る結果でした。校内研修で国語の授業改善に取り組んでいる結果が表れています。

#### 【算数】

- 問題文を音読することを大切にし、問題理解に児童自ら取り組む活動を大切にしています。その結果、問題内容を理解し解くことを心掛けることができ、無解答率が全国平均よりも低くなったと考えています。
- 自分の考えた導きを既習事項の言葉や数値を用いて、自身でノートに記述していく機会を増やすことで、自分の考えを文章で書くことへの抵抗がなくなり記述式への解答率が上がったと考えています。

**【課題】****【国語】**

- 「話すこと・聞くこと」の話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができるかどうかを見る設問の正答率が低く、課題があります。自分の考えを書いてから話すことや話し合ったことをノートにまとめるなど「書くこと」と「話すこと・聞くこと」を関連付けて指導を進めていきます。

**【算数】**

- 問題文が、内容と「二次元の表」、内容文と「二次元のグラフ」の正答率は、全国平均を下回っています。グラフから読み取れる情報を整理し、問われていることに対して正確に答え、自分の考えを説明する力の育成を進めていきます。
- 「データの活用」のような何かを手がかりに解決していく問題においても、課題が見られます。データの数量関係を数学的な考え方で説明できるよう図・式を用いてのふりかえりを記述指導していきます。

【別紙様式】

## 3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
① 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	67.5	67.7	83.5
② 英語の勉強は好きですか	67.5	52.9	69.3
③ 自分には、よいところがあると思いますか。	75.6	82.4	84.1
④ 学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	86.4	79.5	86.3
⑤ 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。(全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した。)	89.2	85.3	79.1

- 昨年度の質問紙調査の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という項目は肯定的回答が多かったです。しかし、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的割合は令和5年度も令和6年度も大きな変化は見られませんでした。本校児童は地域の行事には積極的に参加しているが、自ら進んで活動に取り組むことへの意識の向上が課題です。今年度より教育課程特例校として「地域未来の学習」に取り組んでいます。地域の方々との交流の機会を大切にし、児童が一步踏み出せるような取組みを進めていきます。
- 「英語の勉強は好きですか」の項目では肯定的回答が半数程度となっています。外国語担当と連携を図りながら、楽しい授業づくりを進めていきます。
- 本校のこれまでの課題の一つとして自己肯定感の低さがあります。児童の良いところやがんばっているところを、教員からだけでなく児童同士でも伝えあう機会を大切にしてきましたので、少しずつ児童にも伝わりつつあると感じています。
- 本校の校内研究テーマは昨年度に引き続き「認め合い・支え合い・高め合い」です。日々の教育活動の中で学び合う学習活動を重視しています。今年度進めている活動内容の現時点での進捗状況を教職員全体で確認するとともに、児童の変容について丁寧に見取り、授業づくりにつなげていきます。
- 「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。」の項目での「全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えている児童の割合が高い結果となっています。算数についての同様の質問についても高い結果となっています。これは、本校がこれまで「誰一人取り残さない」授業づくりを進めてきており、児童が粘り強く学習に向かう資質を培ってきた成果の一つだと感じています。今後も一人ひとりを大切にした授業づくりを進めていきます。